

ヌカカマド、一世を風靡す

今回紹介するのは、2年前に新しく収蔵されたばかりの資料です。その名をヌカカマドといいます。製品としては**カマド**（カマド）の呼び名がついていますが、行田市ではヌカカマドと呼ばれてきたそうです。名前から分かる通り、火をおこして食品の煮炊きに使うかまどの一種で、上部に羽釜を置いて使います。溶かした鉄を鑄型に流して造る鑄鉄製品で、県内では鑄物の街・川口市でかつて盛んに造られていました。本資料も形状や刻印された品名から川口産の製品とみられます。

ヌカカマドの燃料には薪ではなく粉殻を使います。粉殻は精米の過程で大量に出るものですが、焼いた粉殻は良質な肥料になるため、粉殻を焼く専用の道具（**カマド**）も存在します。その点、ヌカカマドは調理しながら粉殻も焼ける効率の良さから、農家の間で人気になりました。釜を置く上部の枠を付け替えば、どんなサイズの釜でも使えるという工夫もされています。



ヌカカマド（行田市郷土博物館蔵）

また、粉殻は薪より簡単に燃えるので火おこしの手間がかかりません。しかも、点火したら燃え尽きるまで放っておけば米が炊けるため、火の番をする必要がなく、家事の「時短」にもなりました。ヌカカマドが発明されたのは明治時代後期頃ですが、特に流行したのは昭和20年代といわれています。戦後もなく物資が不足した時期、粉殻やおがくずで煮炊きが出来た道具は重宝されたようです。しかし、ガス・電化製品の普及や生活様式の変化により、昭和30年代を過ぎると急速に姿を消してしまいました。まさに一世を風靡した道具といえるでしょう。

（郷土博物館 岡本夏美）

はじめまして



平成31年1月生まれのお子さんを募集します

- 11月1日(金)～29日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、12月3日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



平成30年11月生まれのおともだち



**小林 そらちゃん** (齋菜)  
平成30年11月7日生まれ  
父・悟嗣さん 母・かすみさん  
「明るく優しい子になってね」



**橋本 献之介ちゃん** (西新町)  
平成30年11月7日生まれ  
父・浩一郎さん 母・絵里子さん  
「癒しのケンケン  
健やかに育ってね♡」



**足立 りんちゃん** (谷郷)  
平成30年11月5日生まれ  
父・淳さん 母・みゆきさん  
「すくすく元気に育ってね♡」



**児玉 結唯ちゃん** (長野)  
平成30年11月3日生まれ  
父・峰さん 母・由樹さん  
「明るく元気に育ってね♡」



**小林 真羽ちゃん** (長野)  
平成30年11月11日生まれ  
父・和真さん 母・杏樹さん  
「元氣いっぱい、  
スクスク育ってね♡」



**萩原 万結ちゃん** (前谷)  
平成30年11月12日生まれ  
父・理さん 母・加奈子さん  
「人生、楽しく!!」

今月の表紙

10月2日、総合公園自由広場で第65回行田市小学校連合運動会が開催されました。

市内の小学6年生が参加し、60メートルハードル走や走り高跳び、ボール投げ、100メートル走など8種目に分かれ、競い合いました。選手たちは日頃の練習の成果を発揮しようと、抜きつ抜かれつの白熱した勝負を繰り広げていました。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい  
植物油インキ

市報ぎょうだは  
再生紙を  
使用しています